

見学旅行から学んだ日本文化

六年 A・K

昨年九月、私は京都・奈良へ見学旅行に行きました。私にとってこの見学旅行は、中学の時から楽しみにしていた行事でした。というのも、私は小学生のころから考古学と呼ばれる学問が好きだったからです。考古学を好きになったきっかけは、家の近所に民間の考古学研究所があったからでした。そこは遺跡から発掘された遺物を整理し、記録するという作業を行うところで、私はその研究所の所長さんから、機会があるたびに縄文土器や石器などを見せてもらっていました。そこからさまざまな古代の歴史に興味を持つようになり、高校生になってからは特に古代の信仰について知りたいと思っていたので、今回見学旅行で古墳の多い奈良や、神社・仏閣の多い京都に行けることは非常に魅力的でした。今回の感話では、そんな考古学マニアの私が、見学旅行で感じたことや考えたことを書きたいと思います。

私は京都では、平等院などの有名な寺院を中心に回るコースを、奈良では古墳を中心に回る、少しマニアックなコースを選択しました。特に奈良県のコースは、マニアの間では有名な古墳にいくつも行くことができました。蘇我馬子の墓と言われる石舞台古墳（史料写真①）は、それほど考古学に興味のない人でも聞いたことがあると思います。他にも、全国に何千とある古墳の中でも数基しかない、双方中円墳や八角墳といった、ちょっと珍しい古墳もいくつも見ることができました。この写真（史料写真②）は、語り部の先生の計らいで、急遽行く事が出来た都塚古墳です。都塚古墳は昨年、日本では類を見ないピラミッド型の古墳であることが判明し大変注目されました。私はその時非常に喜んで、引率の先生から「古墳姫」というあだ名をつけられてしまったほどでした。

私は今までも、地方に旅行に行ったりしたときは古墳を訪れてきました。しかしそんな私にとっても、やはり奈良で見た古墳は格別でした。丘の上に立って、見渡す限り古墳、それもほとんどがかなり大規模なもの、という景色を見たときは、とても感動して、思わず息をするのも忘れて、呆然とその場に立ち尽くしてしまいました。（史料写真③）見学旅行では、古墳のコースをとらない人でも、バスの中から幾つか見ることができるので、ぜひ、古墳の大きさとその歴史を、体で感じてきてほしいと思います。

ここまでつらつらと古墳について語ってきましたが、私がなぜ、古墳に興味があるのかももう少し詳しく述べると、それは古墳がお墓であるからです。お墓には、その時代の死生観、人生観、死後の世界についての考え、神という存在についての考えが反映されます。例えば、縄文時代の屈葬という埋葬の仕方です。屈葬は、亡くなった人の手足を折り曲げて、ひもでぐるぐる巻きにして固定し、それを埋めています。今では考えられない埋葬の仕方ですが、これには当時の、死者が復活し、自由にまた動き回るのではないかという、死者に対する恐れが表れています。体をがっちり固定することで、復活しても二度と動き回らないようにということのようです。古墳の形一つとっても、古墳自体の形が当時の死生観を表していると主張する学者もいます。ただし古墳の表す死生観については様々な説があり、何が正しいのかまだ詳しくわかっていません。それも私にとっては古墳の面白味の一つです。

例を上げましたが、昔の日本での考え方は、今の私たちには信じられない信仰や感覚を持っていました。特に、仏教が伝来する前の古墳時代などの信仰は、今とはとても違っている点が多いので、私たちの現在の死生観と比較してみると、同じ日本に住んでいながらも、そのころの人たちは今の日本文化とは全く違う文化をもっていたことがわかつて思います。

今に伝わる日本の文化については、様々な場面で触れる機会が多いと思います。最近ではテレビ番組で、日本文化をもう一度見直す、という名目で、日本の伝統的な文化などを取り上げるバラエティー番組が増えています。テレビをつけるとよくやっているの、私も時々みえています。日本に住んでいる私たちも知らない日本文化を知る事が出来て面白いですが、知らず知らずのうちに、日本の文化がとても優れているものだ、という考えを持たされてはいないでしょうか。確かに優れているのかもしれませんが、他国の事情や日本独特の事情を無視して、一方的に日本の文化を称賛する傾向のこれらの番組は、私個人の意見ですが、少しやりすぎな気もしています。

現に今、世界では、多様な文化の違いを受け入れられない人々が争うという事態が起こっています。特にイスラム教の文化については、私だけでなく世界中の多くの人と同じように感じていると思います。自分たちの文化が一番正当であると主張するあまり、解決の糸口が見えず泥沼化しているのは、一目瞭然です。

私たちの文化がこのように不安定な状況に晒されている今、私たち自身が日本の文化を客観的に理解すると言う事はとても重要なことです。特に、日本人は無宗教であると考えている人が多いので、今私たちが持っている文化を、スタンダードなものだ、と心の中で無意識に考えてしまうことがあるのではないのでしょうか。

そんな時、過去の文化を振り返ってみることは、非常に重要なことです。今私たちが持っている文化や価値観は当たり前なものではありません。先ほど述べたように、自分の祖先ですら、まったく違う文化を持っていたのです。時の権力者や様々な地域から影響を受け、日本の文化は変化を遂げてきました。私たちの文化は、私たちのこの土地に適合したものであり、他の国々にも、その土地に適合した文化があって当たり前なのです。

私はこの見学旅行を通して、考古学についてしっかりと学び、もっと専門知識を吸収し、歴史をよく知らない人にもその大切さを考えてほしいと思い、大学で考古学について学びたい、という決意をしました。よく、「歴史は実学ではない」と言われ、「考古学を学んでも意味がない。将来の就職にも不利だ」と言われることがあります。確かに、考古学は経済学や法学のように、直接社会の役に立つ分野の学問ではないと思います。しかし、先ほども述べたように、過去を知ると言う事は、現在、そして未来の自分たちの文化を知り、他国とどう接するべきなのかについて考えるのに、必要なことなのです。私は、中でも日本独特の文化にもっとも近い、古墳時代以前の時代を研究することで、日本の未来に貢献したいと考えています。特に、これらの時代は日本神話の舞台になった時代でもあります。日本神話は、日本が第二次世界大戦に負けるまで、「日本は神の国である」という思想に大きくかかわってきました。神話が実際の歴史として教えられ、神が造った国なのだから日本は戦争に負けるはずがない、という思想です。この思想を小さい時から刷り込まれた日本人は、戦争でたくさんの人々を苦しめる結果になりました。一度は間違った解釈をされたこの日本神話を、私は実際の日本の生い立ちとのつながりを調べて、正しい解釈を未来の日本人たちに残したいと考えています。

最後に、六年生になった今、五年生という時期に、見学旅行で日本文化に触れることができるのは、とても意味のあることだと思っています。見学旅行では、有名な寺社をめぐるコースだけでなく、少しマニアックなコースも用意されています。ただ何となく参加するのではなく、なるべく行先を一つだけでも

詳しく調べてから参加してみてください。何も知らずに行くのとは大きく違うと思います。帰ってきた後、ただ楽しかった、というだけでなく、有意義だったと思える見学旅行になると思います。

(文中の史料写真①～③は省略しています。)